

13/Nov.2012

07:26 ベトナムの朝、起床

09:00 ゲストハウスをチェックアウトして昨日物色したリーズナブルなホテルに入る。これから3泊することになる。ホテルコンドアン (kong doan)。20\$。

少し、街歩きの後、バイクタクシーを借り上げることにして3箇所を巡回することにする。

- ①ド、カストリの司令部跡
- ②ダイエンビエンフー博物館
- ③A-1の丘
- ④勝利の記念像

10:40 ド、カストリの司令部跡を見る。

11:20 ダイエンビエンフー博物館に行くも、長い昼休みに入り、閉門中。

13:00に開門すると言う。それまでの間、チュンタムI市場の食事処で昼食。市場を見て歩く。

13:50 ダイエンビエンフー博物館。

15:00 A1の丘

15:50 人民軍戦没兵士の墓地

16:25 勝利の記念像

16:50 ホテル帰着

ダイエンビエンフー (Dien Bien Phu) のまちについて

Dien Ben Phoの名は、我々の世代には大変懐かしくもあり、ロマンの地である。ベトナム人民がフランス植民地主義者を追い詰め、勝利し、北ベトナム地域のひとまずの独立を達成した世界歴史に印する地として心に残っている。1954年のことである。それはベトナム戦争の始まりでもある。サイゴン陥落によりベトナム人民のまさに世界史的勝利と南北統一が達成されるのは、1975年春である。爾来37年。ラオスを歩き、北部国境を超えて入国した者にとって、その感覚はないが、改めて右の位置図をみると(赤がDBP、白がハノイ、ホーチミン)いかに、この地が山岳地域の辺境であるかが判る。ラオス国境のオフィサーによると、一日150~160人が通過すること。物流も僅かの日用品。ときおり、飼料穀物を満載した大型トラックが通過する程度。物流も細い。ベトナムもまた多民族であるが、この地域はタイ族などの少数民族が居住する地域である。まちの通りから、ほんの数分バイクを進めると、高床式の集落が展開し、伝統的な暮らしが営まれている。中心部はコンパクトな盆地である。主だったところは徒歩の範囲。その外には広大な水田と集落が広がる。その背後には深い山。まちには、それぞれの民族固有の装束の人物が通行する。北部地域とハノイを結ぶ、交通の要衝である。ハノイへは、470Km、10時間のバス行程である。リゾート地サバにも通ずる。近年、観光客が増加し、レストラン、宿泊施設などの整備されてきた。フランス軍との戦闘ゆかりの地が観光資源として修復整備されている。空港もあり、活気が感じられるまちである。



まちあるき



↑ゲストハウス裏窓からの朝の風景。ハノイ行きの大型バスが給油。



←葬儀の車列に出くわす

小鳥を飼うのが好まれるよう
だ。町中何処でも見られる→



←消防署、金融機関

昼食を探る。



チュンタム I 市場に隣接する中華飯屋で昼食を探る。野菜入りチ
ャーハンとスープである。これが中々口に合う。300 円まで。
人のよさそうな主人と妻が経営する。67~8歳の主人と交流。



←店にはこんな宗教施設が



←ド・キャストリの司令部跡で購入した独立戦争の写真集を見せると、
しきりに覗きこんできた。外は雨、店先のサービスのお茶を飲んで休ん
で行けと勧める。緑茶である。



←店には少数民族がその衣裳で 4 人が来店。
しばし交流。日本人のツーリストは案外に少な
いらしく、同じアジアの民からか、親しく寄っ
てくる。



←こう言った店である。店先で主人の妻が調理中。



外は雨、しばらく休憩する。→



←このおじさんはバイクタクシーの運転手である。タイ族の人である。自分の息子は一人は学校の先生、一人は医師であると言う。息子が日本を訪れた時、お土産に購入して来たデジタルカメラ（canon）が操作表示が日本語であるため、よくわからないと言って、しきりに尋ねてくる。バスターミナルの前の喫茶店である。



↑動画
バイクタクシーのおじさん



←夕食を済ませて、通りに出ると、そこに「トラ」。ウソ、いたずらに犬にタイガーの色付けしたもの。ユーモアいっぱい的人物がいる。面白いものだ。後ろの看板が楽しい。Photocopyとある。デジタル写真の北一屋だ。ユーモアと近代の混淆である。このような感覚は親近感がある。犬はどこにでも寝そべっている。ラオスでもタイでもベトナムでも・・・野良犬か飼い犬か判らないのが普通。



←まちの通りにこの横断幕が多数掲げられる。フェスティバルか政治スローガンかと思いきや交通安全キャンペーン



同じ横断幕の車が何やら、叫んでいる。交通安全キャンペーンである。バイクタクシーは危険です。4輪車タクシーを使いましょうとのこと。意に介さず、バイクタクシーが営業する。
←動画 勝利の記念像階段下のロータリーで



←まちの食器や金物を扱う店で、ベトナムコーヒーのフィルターを物色していると、日本語で話しかけてきた。日本からのツアーリストである事が判ったらしい。沖縄の大学で森林・林業を学んでいたと言う。今、ジャイカの仕事に係っているとのこと。しばし、交流。



110.0000	6h30, 17h00
120.0000	5h, 7h, 8h, 9h, 15h, 17h30
130.0000	6h00
150.0000	1 h00
33.0000	5h30
110.0000	5h30, 6h30
75.000	11h00
100.0000	5h30
73.0000	6h00, 7h00, 8h15, 9h30, 17h00
200.0000	7h30
45.0000	6h00
45.0000	11h00, 15h30
37.0000	12h30, 16h00
120.0000	5h30, 6h30, 7h00, 8h30, 11h30
120.0000	4h30, 8h30 - 8h30
(CLC CHẾ NGỒI)	90.0000 5h00
HÀ HỖ (THƯỜNG)	32.0000 6h00, h00
HÀ SƠN (THƯỜNG)	32.0000 6h30
SỨ LƯ (ƯỜNG)	57.0000 7h00
MƯỜNG LUẬN	32.0000
MƯỜNG CHÁ	32.0000



↑バスターミナル。各地へ一日40本のバスが出発する。居並ぶバス。北部の交通の要衝。乗車券売り場。ウドムサイ20万VD(約800円)、7時30分発とある。1日1便である。ハノイは30万VD(1200円)。何故か英語表記は皆無。16日のウドムサイへの乗車券を買っておくことにする。座席数を発券する訳ではない。発車1時間前にはバスターミナルへ来ておくこととする。

15日の昼食風景



↑中華風の店。店に入るとオヤジはテレビを見ながら賄い食を探っている。メニューが貼ってある。ベトナム語だ。価格はすべて000。この前に数次を書き込むのだろう。焼飯を注文すると、店先で調理。



←焼き飯とスープを注文。これがパリットしていて、中々いける。口に合う。きゅうりの漬物が出される。300円もあれば十分。



←ガソリン給油所。ベトナムは南部の海底油田の原油生産が増加し、GDPの4分の一を占める輸出品となっているようだ。国営である。製油所がなく、原油の輸出、石油製品の輸入の形態だと言われた。最近、製油所が建設されたと言う。業界も整備されたのか、PetroLimexの給油所が町中に見られる。価格水準はリッター当たり100円。給油所には携帯電話を使うなどの表示。引火の恐れがあると考えられているようだ。これはラオスでも同じ。

チュンタム I 市場を垣間見ました。



市場は市場建物に所在する店。加えて、その周辺を取り囲む露天商で、大賑わいである。何でも揃う。商品はあふれているといった印象である。くだものは豊富で、日本同様の柿を見ました。



↑ 昆虫類を漬け込んだ焼酎。
好まれるのか何処にでもあ
る

